九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[046] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10226

出版情報：語文研究. 46, 1978-12-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

編集後記

異常渇水の夏秋を、会員諸兄姉いかがお過ごしだったでしょうか。

遅れましたが、第四十六号をお届けいたします。今回は、横山正氏から力作の御投稿を得ましたこと、ありがとうございました。その外は、今回は大学院学生諸君のものがそろいました。若い人たちの努力のあとを、あたたかく見守って下さいますように。そのほかにも、すぐれた原稿をお寄せ下さった方々もありましたが、紙数の関係で掲載断念のほかないなど、残念でした。近ごろは、会員数の増加もあって、掲載原稿不足に苦しむということは少くなりましたが、逆に、掲載の御希望に紙幅の関係だけで、お応え出来ない場合がだんだんとふえてきました。といって、年二回を三回刊行へと飛躍するには、まだまだ会員や人手の上で問題が多く、考えあぐねているしまつです。

十月二十三日（月）に、春日和男先生御退官記念『語文論叢』の刊行記念講演会が開催されました。先生をはじめ、大野晋・筑島裕の両教授が講師として西下され、西日本新聞社のホールを埋め尽して、廊下まで溢れる聴衆を得る大盛会でした。その夜の懇親会にも小島吉雄先生をはじめとして、多数の先輩・卒業生・知人に御出席いただきました。研究室員一同、厚く御礼申し上げます。春日先生からも、誌上でよろしく会員に伝えてほしいとの、御伝言であります。

なお国語学講座の後任者はまだ決ってはおりませんが、そのほかに、中野助教授が九月から二月末まで、内地留学で東京出張、今井が学部長という貧乏くじで、授業の穴も小さからず、国語学の佐田講師のほか、十月からは後期半年間、石川八朗九工大助教授に来講をお願いしています。

次号は、六月刊行の予定です。

（今井記）

≪規　定≫

一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るがそれ以外の方に投稿を依頼することもある。

二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三〇枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。

三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。

四、刊行は年二回（春・秋）を原則とする。

五、刊行会会費は現在年額維持会員二千円（各号二部配布）、通常会員千円（各号一部配布）とする。

六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。

七、会員以外の購読者は毎号ごと誌代を納められたい。